

試合観戦者の属性に関する研究

—Jリーグ試合開催が地域へ与える影響 (1)—

会員種別 ○梶島 邦江*
会員種別 小久保 諭**

1. はじめに

さいたま市には、大宮アルディージャ、浦和レッドダイヤモンズのJリーグ2クラブが存在している。Jリーグはホームタウン制を採用しており各クラブはクラブ運営の中で地域との関係を重視している。さいたま市は、旧浦和市を中心にサッカーが盛んな土地柄であり「サッカーのまち」を標榜している。

2. 研究の目的と方法

①研究の目的 本研究ではさいたま市をホームタウンとするJリーグクラブと地域との関係を観客誘致圏から、またホームゲーム(以下、試合)が開催されることによる地域への影響について試合観戦後の行動から考察する。第1報では、サッカーの試合観戦者(以下、試合観戦者)がどのような人によって構成されているのか、その誘致圏域がいかなるものかを明らかにする。第2報では試合観戦後の行動を通して試合開催の地域への影響を明らかにする。過去の研究(注)においても試合観戦者に関する調査は行われているが、多くは対象がスタジアム内での行動に限られ、目的も集客、クラブ運営に主眼が置かれている。本研究は地域との関係に主眼を置く点に独自性がある。

②調査の方法 試合観戦者の属性と試合観戦後の行動を明らかにするためにアンケート調査を行った。調査の対象は、2005年10月22日(土)15時開始の「大宮アルディージャ対浦和レッドダイヤモンズ」を埼玉スタジアム2002で観戦した人(観戦者数30,038人)である。調査方法は、試合開始前に調査表を配布し、郵送もしくはE-mailで回収を行った。配布数は1857通、回収数は郵送/507通、E-mail/5通で、合計512通を用いて分析を行った。調査項目は(表1)の通りである。

表1 調査項目

対象の属性	年齢、性別、職業、同伴者人数、観戦歴、観戦回数、応援チーム
観戦後の行動	活動内容、費用、活動時間、移動手段

3. 試合観戦者の属性

試合観戦者の性差は、男性が55.5%で女性に比べてやや多い。試合観戦者の年齢構成は30代、40代が中核層となり5割以上を占めている(図1)。この層はJリーグが開催した当時20代であった人々である。試合観戦を始め

るきっかけについては、Jリーグ開幕とする人が48.2%いることからJリーグの開幕が試合観戦に与えた影響が大きいことが分かる(図2)。当時試合観戦を始めた人々が現在も試合観戦者の中核となっている。それ以外の年齢層では、29歳以下よりも50歳以上の方が人数が多く、中高年が多い年齢構成となっている。試合観戦者の職業構成は、サラリーマンが47.8%で年齢構成を反映している。次に大きい割合を占めるのは主婦が23.0%である。女性の中で主婦の割合は50.4%ともっとも大きい。

試合観戦者の同伴者は、夫婦や親子など家族と観戦している場合が5割弱を占めている。それ以外で多いのが友人・恋人の26.1%である(図3)。観戦グループの人数は2人が48.8%と半数近くを占めている。次に多いのが3人の16.7%で、1人~3人までに80.5%が含まれており少人数のグループが中心である(図4)。年齢と観戦グループの関係は、年齢が高くなるほど家族と試合観戦を行っている割合が高い。

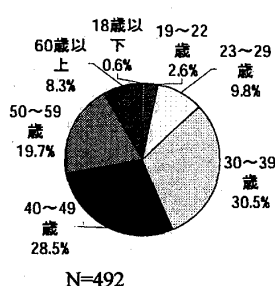


図1 年齢構成

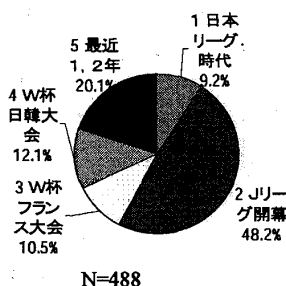


図2 試合観戦歴

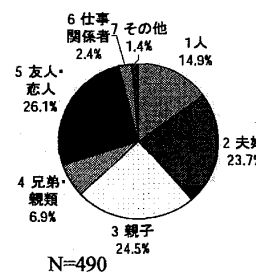


図3 同伴者構成

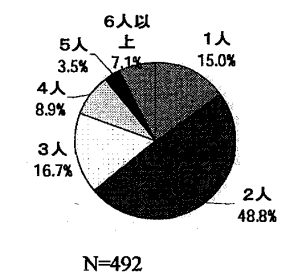


図4 グループ人数

4. 試合観戦者の地理的な広がり

①ホームタウンの影響 試合観戦者の地理的な広がり、ホームタウンであるさいたま市を中心に埼玉県内に多く分布している。埼玉県を居住地とする人の割合は79.8%

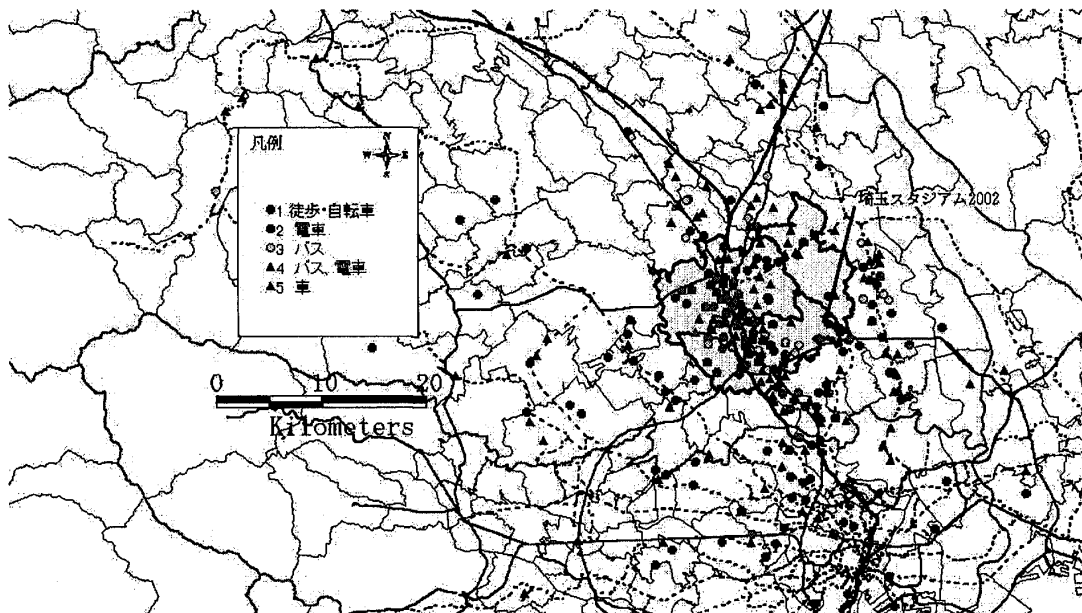


図5 移動手段別分布図

で、さいたま市を居住地とする人が 46.8%であることから観客誘致圏が関東地方に広がる一方で、ホームタウンに集中していることが分かる。さいたま市内の中でも分布密度が高い大宮区、浦和区は人口密度が高く旧大宮市、旧浦和市の中心部である。さいたま市外でも京浜東北線や高崎線、東武伊勢崎線など鉄道沿線に分布がみられる。埼玉県外では隣接する都県で分布が見られるが特に東京特別区に分布が多い(図5)。

②交通手段の影響 試合観戦者の分布は交通手段の影響を強く受けている。スタジアムへのアクセスは、鉄道の場合は最寄りの浦和美園駅から 20 分の徒歩となる。それ以外では、浦和駅、東浦和駅、北越谷駅より臨時バスが運行されている。試合観戦者のうち鉄道利用者が 65.8%と最も多い。またスタジアムには一般観戦者用の駐車場は用意されていないが、車利用者が 17.6%にのぼる(図6)。自宅からスタジアムまでの所要時間(スタジアムからまっすぐに帰宅した場合の所要時間として質問した)の平均は、68 分であり、90 分以内に 86.5%が含まれる。

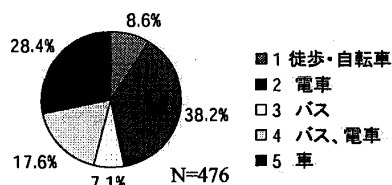


図6 移動手段

5. まとめ

Jリーグの試合観戦者層は、Jリーグ開幕の影響を強く受けた現在 30代、40代が中心となっている。観戦グル

ープは少人数であり家族と試合観戦をする人の割合が5割弱を占めている。地理的な広がり、さいたま市を中心に関東で広く分布する一方でさいたま市に分布が多いことから地元で支持が高いことが分かる。

ホームタウンであるさいたま市に居住する人の特徴を明らかにするために居住地別にみると、さいたま市民の特徴は、年齢構成は 50 代にピークがあり 30 代~50 代で全体の約 8 割を占める。埼玉県外の地域と比べると 50 代の多さが突出しており、23~29 歳が極端に少ない(図7)。さいたま市以外の埼玉県はその中間的な構成となっている。同伴者構成は、さいたま市は他地域に対して夫婦の割合が大きな値を示している(図8)。また親子が埼玉県について割合が大きい。この夫婦と親子を合わせて家族として再集計するとさいたま市がもっとも割合が高く、ホームタウンほど家族で試合観戦する人が多いことが分かった。

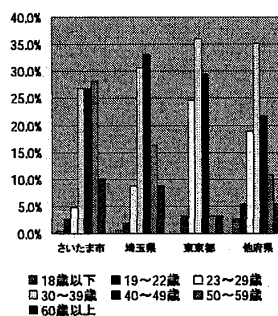


図7 地域別年齢構成

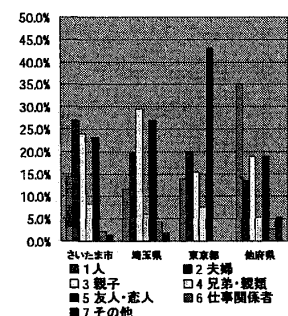


図8 地域別同伴者構成

*サンプル: 数さいたま市 227, その他埼玉県 160, 東京都 61, 他府県 37

注: 松岡宏高 1996. プロスポーツ観戦者の誘致距離に関する研究 大阪体育大学紀要 27,63,70. など

*埼玉大学教養学部 教授・工博

**埼玉大学教養学部梶島研究室 研究員

*Prof.Faculty of Liberal Arts,Saitama University.,Dr Eng.

**Researcher.Kajisima Laboratory, Faculty of Liberal Arts,saitama University.